

Peace
Truth
LOVE

平和と真理と、愛

Donation News 2025

寄附事業のご報告

— 心から感謝をこめて —

学校法人 茨城キリスト教学園
IBARAKI CHRISTIAN EDUCATION COMMUNITY

ご寄附に関するお問い合わせ

茨城キリスト教学園 寄附係

TEL.0294-52-3215 (代)

〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1

mail donation@icc.ac.jp

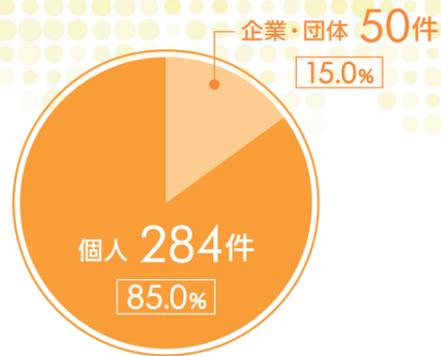
寄附サイト <https://www.icc.ac.jp/donation/>



2024年度（2024年4月～2025年3月） 寄附募集実績について

寄附総額

10,706,523円



寄附の用途指定割合



2024年度 寄附報告

2024年度は、334件、10,706,523円のご支援をいただきました。前年度と比べて寄附件数、寄附総額ともほぼ同数となり、年間目標寄附額の1,000万円を達成することができました。寄附の用途別割合は、用途を指定しない「学園全体」への寄附が最も多く約3割となりました。

昨年度は、円安や物価高騰に伴い、本学園から海外に留学する学生・生徒、海外から本学園へ来た留学生にとって一層厳しい経済環境となりました。また、校舎の老朽化に伴う改修や設備更新も年々必要になってきております。このような環境変化の中、皆様からの温かいご支援により、「ICグローバル人材育成奨学基金」を活用した奨学金給付事業やグローバル教育支援事業を実施いたしました。また、「IC未来サポート基金」で、大学やキアラ館の備品の更新や新規購入、高校校舎前広場の整備、中学校に授業で使用する畑整備など、教育環境やキャンパスライフの改善に活用させていただきました。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。なお、本寄附事業の寄附残額は、41,198,368円（2025年3月31日現在）です。



ローガン・ファックス記念講堂の寄附者銘板に対象者（単年度累計で個人10万円以上、法人50万円以上）のご芳名を掲載しております。



年度別寄附件数・総額



2024年度 寄附事業報告

ICグローバル人材育成奨学基金

1. 海外へ留学する学生・生徒への奨学金事業

	給付人数	給付総額
大学・大学院	17名	1,200,000円

2. 海外からの留学生への奨学金事業

出身国	給付人数	給付総額
ベトナム	5名	1,200,000円
中国	8名	800,000円
インドネシア	1名	240,000円
イタリア	2名	240,000円
韓国	1名	140,000円

3. グローバル教育支援事業

内容	金額
認定こども園 「劇団バナナによる英語劇 (日英バイリンガルシアター)」	176,965円

IC未来サポート基金

1. キアラ館

内容	金額
花台設置	124,300円



2. 大学・大学院

内容	金額
11号館 イス・テーブル等追加設置	2,266,000円

一人掛けソファとテーブル



ソファ 別タイプ



図書館側長机



パーティションとして使えるシェルフ



3. 高等学校

内容	金額
3号館 校舎前広場整備	2,530,000円
野球部 トレーニング機材等購入 ※寄附者用途指定事業です。	15,000円

3号館 校舎前広場整備



トレーニングチューブプロ



スライドボード



ケトルベル



バランスボール



4. 中学校

内容	金額
畑整備	1,142,503円



5. 認定こども園 せいじ園

内容	金額
身長計付き デジタルコラムスケール(体重計)	114,000円



教育振興資金

内容	金額
施設拡充、教育活動支援等教育環境整備	960,000円

2024年度の本学園の主な教育環境整備については、「事業報告書」をご覧ください。

事業報告書URL

https://www.icc.ac.jp/edu/about/disclosure/business_report/index.html



認定こども園のグローバル教育

学園の教育の特徴である「グローバル教育」。大学や高校、中学校では学生生徒が海外に留学したり、海外からの留学生による異文化交流をしたりしますが、認定こども園でのグローバル教育はどのように行われているのでしょうか。本学園ならではの教育プログラムもあり、園児たちは楽しみながら異文化を体験しています。

そこで今回は、「認定こども園のグローバル教育」について園長の西村先生に話を伺いました。なお、認定こども園へのご支援を希望される方は、「せいじ園」「みらい園」それぞれで募集しております。また、本学園のグローバル教育にご支援いただける場合は、「ICグローバル人材育成奨学基金」への寄附をお願い申し上げます。

Q1. 認定こども園で実施しているグローバル教育は、どのような目的で実施しているのでしょうか。

A1: 知らないことを知りたいという気持ちを持ち、知らないことを知る喜びを自信とし、視野を広げ、自分たちとは異なる国、文化の人々と関わることで多様性を受容する感性を高めてほしいという願いを持ちながらグローバル教育に取り組んでいます。

Q2. 寄附事業である「ICグローバル人材育成奨学基金」を活用してこれまで実施した内容について教えてください。

A2: 影絵音楽や英語kidsリトミック、英語ダンス、日英バイリンガルシアターを楽しみました。影絵音楽では、ガムラン音楽(東南アジアのインドネシアで行われている大・中・小様々な銅鑼や鍵盤楽器による合奏の民族音楽の総称)に合わせてジャワ島影絵芝居(ワヤン)スタイルによる影絵を鑑賞しました。子どもたちは、初めて聴くガムラン音楽に興味を持って鑑賞していました。英語kidsリトミックやヒップホップダンス・レッスンでは、講師の英語の発声を聞きながら自由に体を動かす楽しさを味わいました。言葉の意味で動くのではなく、目と耳で感じる感性で体を動かす子どもたちの柔軟性に驚かされました。昨年は、日本語に英語フレーズを交えた日英バイリンガルシアターを鑑賞しました。歌やダンス等園児参加型の劇であったため、子どもたちも演者と一体になって英語フレーズを発声し、全身で楽しんでいました。毎回、子どもたちがワクワクドキドキしながら楽しむ姿に成長を感じています。

Q3. 寄附を活用したプログラム以外にも、本学園ならではのプログラムも実施していますね。

A3: 昨年、学園内にある大学地域・国際交流センターの協力により【せかいをしよう】という留学生との交流が行われています。大学で学んでいる留学生から自国の文化や慣習等を教えてもらったり、子どもたちの質問に答えてもらったりして異文化交流を深めています。韓国の誕生日にはケーキではなく、ワカメスープを食べるとい話を聞き、自分たちとは異なる文化に子どもたちも驚いていました。毎回行うじゃんけんも、国によりやり方が異なるため、子どもたちも興味を持って参加しています。昨年度は、イタリア、中国、ベトナム、韓国の留学生などと交流が行われ、保護者からも大学附属園ならではの取り組みとして好評を得ています。



Q4. 園児だけでなく、先生方を対象とした海外研修制度があるそうですね。

A4: 子どもたちを教育・保育する私たち保育教諭もグローバルな視点で物事を見ることができるようという目的で海外研修を行っています。コロナ禍前になりますが、毎年1人ずつ、これまでに3名がフィンランド教育関係視察研修、幼児教育・保育視察研修に参加しました。フィンランドは、教育・福祉が充実しており、国レベルで子どもが生まれる前から成人するまで各家庭を支援しており、保育者や各教育機関が子どもの情報を共有し、保護者と丁寧に関わっています。0歳児から就学前の子どもたちを預かる本園において、連携という点でとても参考になりました。研修後は、研修の学びを教職員で共有し、教育・保育にあたっています。

Q5. グローバル教育についての今後の展望についてお聞かせください。

A5: 本園では、普段から学園キャンパス内で留学生や外国人の先生方を見かける機会があります。子どもたちはそのような時、自ら声をかけて挨拶しています。自分たちとは異なる国の方であっても躊躇することなく声をかける姿に大学附属園という強みを感じます。今後も世界の様々な国の文化を知ることを楽しみと感じ、興味や関心を持って相手を理解し、思いやることのできるグローバルな感性を育てたいと考えています。それぞれの違いを理解し、共に大切にできる感性【隣人愛】を幼少期より育むためにもグローバル教育に力を入れ、世界で活躍するための心の土台を築いていきたいと思ひます。

※ 本園は、茨城県で初めて認定された幼保連携型認定こども園です。せいじ園(日立市助川町)とみらい園(日立市大みか町)を設置しています。

「認定こども園」
「ICグローバル人材育成奨学基金」のご支援はこちら

ICグローバル人材育成奨学基金による奨学生メッセージ

夏期海外語学研修
大学 文化交流学科 4年
池田 純輝さん
ファンショーカレッジ(カナダ)に留学

今回グローバル奨学金があったことでカナダへの語学留学を十二分に意義のあるものにできたと感じております。昨今は円安の影響もあり、金銭面における工面も必要となる中、奨学金のサポートにより、他に必要な準備の資金や現地地で使うお金に回すことができました。現地での学習もより良いものに行うことができ、素晴らしい時間を過ごすことができました。奨学金を寄附していただき、本当にありがとうございます。

日本語教育実習A
大学 文化交流学科 3年
熊谷 勇佑さん
リアウ大学(インドネシア)に留学

この度は、奨学金を寄附していただきありがとうございます。私は現在大学で、外国人に日本語を教える日本語教育を専攻し、勉強しております。卒業後は大学で学んだことを活かせる職業に就く予定です。インドネシアへ行き、日本と異なる文化(食事の辛さ・甘さ、宗教観、交通手段等)を知ることができました。この経験を通して、人の意見に対して批判的な視点だけでなく、その考えに至る経緯をより考えられるようになりました。培ったものを大切にしていきたいです。改めて、寄附をしていただきありがとうございます。

交換留学
大学 現代英語学科 3年
高柳 あかりさん
新羅大学校(韓国)に留学

まず、グローバル奨学金を提供いただきありがとうございます。交換留学ということで、大学から多くのサポートをしていただいたことは初めての留学ということもありとても力になり、無事に留学へ出発することができました。また留学中もサポートのおかげで安心する場面が多かったと感じます。中でも給付金のサポートは、円安の状況下で大変ありがたいサポートの一つでした。円安は海外に行くにあたってとても厳しい状況だったので少しでも給付金があることは大きく違ったと思います。この留学を通して、海外に行く時はレートの状況をしっかり確認してから換金することや、必要なもの取捨選択が大切ということに気づけて良かったと思います。将来は留学を通して興味を持つことができた航空会社関連に進めたらと思います。

大学留学生
グエン・ティ・ゴック・アインさん
ホーチミン市外国語情報技術大学(ベトナム)出身

この度は、奨学金を支援していただき、心より感謝申し上げます。おかげで、経済的な不安が減り、勉強に集中することができました。茨城キリスト教大学での1年間は、私にとってかけがえのない経験となりました。奨学金の支援がなければ、ここまで充実した留学生活を送ることはできなかったかもしれません。支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。今後は、この留学経験を活かし、さらに成長し続けられるよう努力して参ります。そして、将来は私も誰かの力になれるような人になりたいと思っています。

大学留学生
トロンチ・アンドレアさん
ミラノ大学(イタリア)出身

奨学金をいただきありがとうございます。おかげで日本の生活がより安定いたしました。主に家賃や光熱費に使用しています。私の主食は野菜なのですが、日本の野菜や果物は価格が高いため、買うことを遠慮していました。しかし、奨学金のおかげで安心して買えるようになりました。本当にありがとうございます。深く感謝申し上げます。皆様の期待に応えられるように今後も勉学に励んで参ります。

大学留学生
ムハンマド・ファルハン・アマンドさん
リアウ大学(インドネシア)出身

この度は、留学をサポートする奨学金を給付いただき、心より感謝申し上げます。奨学金のおかげで経済的な不安が軽減され、新しい環境の中でも集中して勉学に励むことができました。茨城キリスト教大学での素晴らしい経験は私の宝物です。この留学で学んだことを活かして、帰国後は社会に貢献して行きたいと思ひます。また、これからも日本語の勉強を続け、将来の夢に向かって邁進していきます。本当にありがとうございました。再度お礼申し上げます。

※紙面の内容は取材当時の情報です。